

きぼう

令和8年7月17日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
6年 学年便り 8月号(夏休み号)

一つひとつがあなたになる

このクラスは、すごく楽しいし、すごくいいと思う。アルゼンチンのメッシやポルトガルのロナウドみたいに一人がずば抜けているんじゃないくて、みんながすごくいい。みんなで同じように考えて、共有できている感じがこのクラスにはある。

休み時間に学級のある子と夏休み前までの学級の様子について話していたときに出てきたのが上記の言葉です。その子は仲間一人ひとりの良さを見つめ、共に日々を創っている感覚を得ているのだと感じました。

夏休みを目前に控えた今、「グル活・本キャンプ」「修学旅行」「つどい」「実習生を迎える会」に向けて歩みを進めています。特にどの学級でも熱を帯びているのが「つどい」の話し合いではないでしょうか。6年間の集大成の一つであり附属小における、いや人生最後の「つどい」に向けて。

ある学級では「そのクラス“らしさ”を伝える『つどい』」とするために、何度も話し合いが重ねられています。「このクラスの良さは、授業が盛り上がるころだと思う」「男女関係なく遊んだり話し合ったりできるところじゃないかな」という意見をもとに話し合いが進んでいます。

「算数の時にさ、先生が問題をだしてくれて、誰かが答えを言うじゃん。『いいねー』『同じだよ』って言うってくれる人がいるのはそうなんだけど、『どういうこと？意味分かんない！』って、分からないことを分からないって言うてくれる人がいるじゃん。その人たちに分かってもらえるように、みんなめっちゃくちゃ真剣になって、いろいろな方法で伝えようとしているじゃん。それが好きだから、『つどい』でもやりたいな」「俺も算数がいいと思う。だって、〇〇先生がいつも図にして分かりやすく説明してくれるじゃん。その人の個性が出ている感じが一番するのが算数だと思うなあ」「授業中にさ、説明を分かりやすくするために、コントをやってくれる人がいるじゃん？それもつどいで披露したらいいんじゃないの？」という意見も出てきました。それに対して「それは無理！絶対無理！このクラスの受け入れてくれる雰囲気があるからできるけど、他じゃできないよ」という反応が見られました。また一部の人だけで話し合いが進んでいると感じた実行委員からは「みんな一回時間とるからさ、今どんなことが話題になっているか近くの人と確認して。みんながわかってないと意味がないからさ」と呼びかけ、またある子は「一部の人だけで話し合いが進んじゃっている感じがするから、机を後ろに下げて円にして話し合わない？その方が意見を出しやすくなるんだと思う」という場面も見られました。

子どもが無自覚的に捉えているであろう「いい」と思う姿の根底に、また話し合いを進めていく過程に表出される言葉の端々に、そのクラスを形づくるものが脈々と流れているのだと思います。分からないことを分からないと言える雰囲気が、その子の個性を発揮しやすい環境とそれを受け入れる受容的な態度が、全員で進んでいくという意識が作り出すクラスは唯一無二のものであり、一つとして同じものは存在しません。

時に話が脱線したり振り出しに戻ったりして遅々として進まない話し合いに対して「辛い」「苦しい」「大変だ」といった不満感を抱くこともあるはずですが、しかし、その感覚は目指すべきものに向かって決して諦めることなく仲間と共に少しずつでも歩みを進めようとするからこそ抱く感情ではないでしょうか。その場に置かれた自分にできることは何だろうか？と自身に矢印を向け、もがき続けたその過程にこそ価値があり、その経験は自身の「きぼう」をより豊かな彩りへとつながっていくのだと思います。

最後になりますが、学年の歌である「にじいろ」にこのような歌詞があります。

あなたが笑えば誰かもわらうこと 乗り越えれば強くなること 一つひとつがあなたになる 道は続くよ

99のきぼうが仲間と紡ぎだす物語がこれからどのように進んでいくのか楽しみでなりません。

ご家庭での子どもの支え、そして本校の教育活動にご理解・ご協力いただき心より感謝申し上げます。本キャンプ終了後に夏休みに入ります。附属静岡小学校の最高学年として走り続けた4カ月。少し肩の力を抜いて心身ともにリフレッシュするとともに、自らをきりひらく夏休みになることを願っています。そして、夏休み明けも職員一同『きぼう』の子どもを、引き続き全力で支えていきます。充実した夏休みをお過ごしください！